

11期卒業生 外交官 井上隼一さん 講演会 開催!!

6月16日(月)、本校卒業生で外務省職員の井上隼一さんによる進路講演会が行われました。進路講演会はキャリアガイダンスの一環として年数回実施されているもので、今回は文系の生徒を対象に行われました。高校在学中の様子から大学を経てどのようにして現在の職業を選択するに至ったのか、また、外交官の仕事を具体的な事例を示しながらわかりやすく説明していただきました。

平成26年6月17日(火)茨城新聞に掲載

外務省の職員を講師に、外交・国際問題について考える講演会が16日、土浦市中村西根の常総学院高(玉井尚良校長)で開かれ、2、3年生150人が外務省の仕事や職業としての外交官について理解を深めた。

講演は外務省の職員派遣事業の一環で行われた。講師を務めた同高OB、外務省総合外交政策局総務課長補佐の井上隼一さん(37)は「日本が好きで、世界から尊敬される国にしたい」という気概がこの仕事を続ける理由」

井上補佐は「集団や国同士の利害の調整、交渉役として国益を守るのが外交官の仕事」と定義。外務省は①「言葉」を武器とした諸外国との交渉②海外の日本人・日本企業の

「尊敬される国に」 常総学院高OBの外交官が講演



外交官の仕事の後輩たちに話す井上隼一さん＝土浦市中村西根の常総学院高

保護・支援③日本人が住みやすい国際環境やルールを整える④日本文化の発信・普及⑤など多岐にわたる役割を解説した。

外交官になっただけにかけについては、高校時代の米国留学の苦労を披露。「言葉は通じず、友人は出来ず、大変な日々だったが、日本人としての自覚、意識は強まった」と振り返り、「学生時代はいろいろ挑戦し、海外放浪もしたが、その中から自分は何が好きで何が嫌いか分かり、外交官の仕事に絞り込まれていった」と説明した。

さらに日中、日韓関係の中で日本が置かれている状況を解説し、「いろいろ問題はあるが、日本は世界から好かれ信頼されている。アジア地域の安定に貢献していく役割を期待されている」と締めくくった。(芳賀和生)

井上隼一さん プロフィール

- 1996年 常総学院高等学校卒業
- 2001年 東京大学法学部政治学科卒業
- 2002年 外務省入省 中東アフリカ局中東第二課配属
- 2004年 英国研修
- 2006年 英国ケンブリッジ大学修士課程(歴史学)修了
6月より在英国日本国大使館赴任
- 2008年 経済局政策課 課長補佐就任
経済局経済安全保障課 課長補佐就任
- 2010年 北米局北米第二課 課長補佐就任
- 2012年 総合外交政策局総務課 課長補佐就任・現在に至る